

2016年度環境活動レポート

対象期間：2016年7月～2017年6月



マトヤ技研工業株式会社

2017年7月12日発行

目 次

1. 経営理念	3
2. 環境方針	4
3. 組織の概要	5
4. 認証・登録の対象組織・活動	7
5. 2016年環境目標とその実績・評価	9
6. 2016年環境目標の取り組み計画と評価	10
7. 2017年度の取り組み	11
8. 環境関連法規等の順守状況	12
9. 代表者による全体の見直しと評価	13
10. 環境活動の紹介	14

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境方針

マトヤ技研工業株式会社 環境方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。マトヤ技研工業は、「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における購入資材のグリーン調達、電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組みます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動を体系的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008年6月1日

改定日：2013年7月1日

代表取締役 益留 福一

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 益留 福一

(2) 所在地

本社 〒899-8608
鹿児島県曾於市末吉町南之郷3050-6
宮崎工場 〒885-0063
宮崎県都城市梅北町11267
大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10
東京営業所 〒121-0011
東京都足立区中央本町4-15-13

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 豊増 敏夫（取締役専務）
環境事務局 益留 房代（取締役総務部長）
連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創業 1985年6月

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容 自動省力機器設計・製作および販売



2017年2月に
新機械振興賞を
受賞しました。



2017年6月 東京ビッグサイトのFOOMA展に出展
いたしました。3年連続の出展ですが、年々来場者も
増えています。

(6) 事業の規模 (2016年度：2016年7月～2017年6月)

売上高 626百万円

従業員	本社	大阪営業所	東京営業所
	42名	2名	2名

(7) 当社のプロセス

新製品開発



営業



設計



加工



組立



据付工事

食肉・食品関連機械と電子部品生産システム自動車部品・クーラント関連機械の3部門 工業所有権 は 27 件

<主な製品>



マルチカッターが

そお・キッド

と、命名されました。



4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社・宮崎工場

大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売

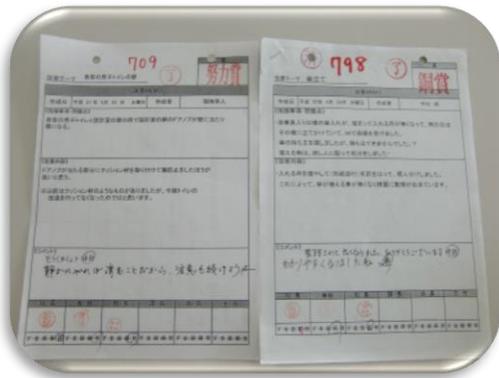


2017年4月1日入社式

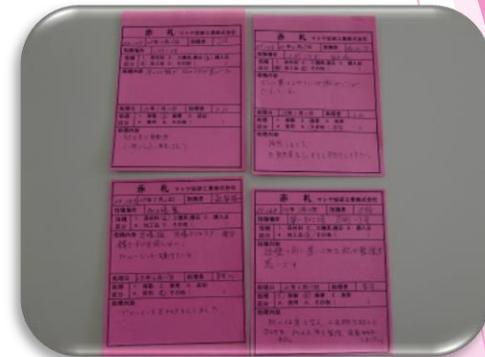


☆ EA21委員会・MI活動委員会について

- 毎月1回、開催されます。社長をはじめとする委員10名で構成されています。
- 毎月、提出される改善メモの検討を中心に会は進行します。
- 改善メモは、毎月一人2件提出し、努力賞からダイヤモンド賞まで決定された後、掲示板に張り出されます。内容は、機械の改善からエコに関することまで、盛りだくさんです。
- 半年ごとに、グループ賞と個人賞の表彰を行ない、報奨金が支給されます。



2017年度は、改善メモシステムを構築し、ペーパーレス化を図ります。



▶ 赤札作戦

5Sを基本に、会社内の整理整頓、清掃等、気になる場所に、赤札が出ると、早急に対処します。隅々まで、清掃が行きとどくように、皆で気を付けています。

5. 2016年度 環境目標及びその実績・評価

- | 1. 二酸化炭素排出量の削減 | 目標 | 実績 |
|---------------------------------|-------|--------|
| ① 電力の削減：基準年比 | △1% → | △6.0% |
| ② 燃料の削減：基準年比 | △1% → | 13.4% |
| 本社 | △1% → | 13.4% |
| 東京 | △1% → | △11.5% |
| 大阪 | △1% → | 49.2% |
| 2. 一般廃棄物の削減：リサイクル率 | 73% → | 97% |
| 3. 産業廃棄物の削減：リサイクル率 | 90% → | 78% |
| 4. 水使用量の削減：基準年比 | △1% → | △9.0% |
| 5. 化学物質の低減：化学物質の保管管理及び保管場所の徹底清掃 | | |
| 6. 環境配慮製品の開発及び販売促進 | | |
| ① クーラント製品及び遠心分離機等 | | |
| ② 業務用 光触媒環境浄化装置 | | |
| 2016年度 販売目標 68台 | | 実績85台 |
| 7. 地域清掃活動 | | |
| 2016年度 目標 48回 | | 実績 51回 |
| 8. 購入資材・事務用品のグリーン購入 | | |
| 2016年度 目標 82% | | 実績 77% |

☆東京営業所と大阪営業所では、電力と水資源と廃棄物は、共有の為管理できませんので、自動車の燃料CO₂の削減のみ行いました。

☆宮崎工場は、電力と水使用量の調査を行ないました。

項目		基準年度	2016年度 2016年7月～2017年6月			
			2015年度	目標	実績	評価
売上高	売上高百万円	697	-	626	—	
電力CO ₂ 排出量 ※2	購入電力kWh kg-CO ₂	85,089 43,310	84,238 42,877 △1%	80,014 40,727 △6.0%	○	
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	38,279	37,896 △1%	43,412 +13.4%	×
	東京	kg-CO ₂	14,146	14,005 △1%	12,526 △11.5%	○
	大阪	kg-CO ₂	5,976	5,917 △1%	8,914 49.2%	×
	合計	kg-CO ₂	58,401	57,817 △1%	64,852 11.0%	×
一般廃棄物排出量	リサイクル率	※1 72%	73%	97%	○	
産業廃棄物排出量	リサイクル率	※1 89%	90%	78%	×	
水資源排出量	m ³	※1 267	264 △1%	243 △9.0%	○	
化学物質の適正管理と清掃	回	24	24	31	○	
環境配慮製品販売量	台	※1 67	68	85	○	
地域清掃活動	回	※1 48	48	51	○	
事務用品グリーン購入	%	※1 81	82	77	×	

評価は、○は達成、×は未達成

※1) 基準年度：2013・2014・2015年度実績の平均値です

※2) 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の平成27年度実排出係数0.509 kg-CO₂/kWhで、遡って算出しています

6. 2016年度 環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた
 △あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画	達成状況	評価	取り組み計画	達成状況	評価
電力による二酸化炭素排出量の削減			節水		
冷房温度28℃設定	◎	事務所内の蛍光灯を、LEDに交換しました。	雨水の有効利用（洗車等）	◎	組立場のトイレを節水型に変更しました。
暖房温度の18℃設定	◎		節水型トイレへ変更	◎	
不要休憩時間照明の消灯	○		化学物質の低減		
OA機器のこまめOFF	○		新工場へ塗装場を移設	◎	宮崎工場への塗装場の移設をしました。毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。
エアコンフィルタの定期清掃	○		化学物質の保管管理及び清掃	◎	
電灯のLEDへの交換	◎		塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	○	
断熱フィルム	○		製品への環境配慮		
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減			クーラント製品等の販売	◎	マグネットコンペアーは順調に売れました。光触媒もFMラジオで宣伝し販売実績があります。
急加速発進の抑制	◎	今年度は、1台エコカー購入をしました。	業務用光触媒環境浄化装置の販売	○	
冷暖房の控え目使用（27℃）	◎				
買換え時はエコカーを購入する	◎				
一般廃棄物の削減			社会貢献		
裏紙利用	◎	社員の一人ひとりの意識は、高いです。	公民館の清掃	◎	毎週水曜日の掃除の日に、協力し合ってきれいにしています。
両面印刷コピーの徹底	◎		周辺道路の清掃	◎	
ミスプリントを減らす	○		購入資材・事務用品のグリーン購入		
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎		事務用品グリーン購入対象品の購入	○	事務用品は、購入の際、エコを優先するがあまり、経費がかかる恐れもあり、注意が必要です。
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎		購入資材の環境配慮	×	
納入業者へ段ボールの引き取り依頼	◎		省エネ性能の高い電気製品の購入	△	
産業廃棄物(廃プラ)の削減			クールビズ・ウォームビズの制服の購入	◎	
委託処分廃棄物の削減	△	委託業者の最終処分が埋め立てだった為、再生をしてくれる業者へ変更しました。			
工事での産廃の分別徹底	○				
産廃ボックスへの廃棄物の最小化	○				

7. 2017年度の取り組み

(1) 2017~2019年度環境目標

東京営業所と大阪営業所の目標は
 ①環境方針等の掲示や環境活動レポートやマニュアルの設置そして定期的な環境学習
 ②燃料CO₂排出量の削減の取組を行います。

一般廃棄物は、2016年度リサイクル率97%を達成した為、2017年度は目標項目に挙げない事としました。しかし、常日頃の一般廃棄物削減の取り組みは、継続します。

項目	基準値	2017年度目標	2018年度目標	2019年度目標	
		2017年7月~2018年6月	2018年7月~2019年6月	2019年7月~2020年6月	
電力CO ₂ 排出量 (※)	本社 kg-CO ₂ 前年度比	2016年度 40,727	40,320 △1%	39,913 △2%	39,505 △3%
	宮崎工場 kg-CO ₂ 前年度比	2016年度 11,733	11,616 △1%	11,499 △2%	11,381 △3%
燃料CO ₂ 排出量 本社、東京・大阪営業所	本社 kg-CO ₂ 前年度比	2016年度 43,412	42,977 △1%	42,543 △2%	42,109 △3%
	東京 kg-CO ₂ 前年度比	2016年度 12,401	12,275 △1%	12,275 △2%	12,150 △3%
	大阪 kg-CO ₂ 前年度比	2016年度 8,914	8,825 △1%	8,736 △2%	8,647 △3%
	合計	64,852	64,203	63,554	62,906
産業廃棄物リサイクル率	%	3カ年平均値 87	88	88	88
水資源排出量	本社 m ³ 3カ年平均値	267	264 △1%	261 △2%	260 △3%
	宮崎工場	2016年度 125	124 △1%	123 △2%	121 △3%
化学物質の適正管理と清掃	回	2016年度 24	24	24	24
環境配慮製品販売量	台	3カ年平均値 73	74	74	74
地域清掃活動	回	3カ年平均値 49	50	50	50
資材・事務用品のグリーン購入	%	3カ年平均値 81	82	82	82

※購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の平成27年度実排出係数0.509 kg-CO₂/kWhで算出しています。
 ※3カ年平均値は、2014・2015・2016年度実績の平均値です。

(2) 2017年度活動計画

取り組み計画

電力の二酸化炭素排出量の削減	一般廃棄物の削減	節水	社会貢献
<ul style="list-style-type: none"> 冷房温度2.8℃設定 暖房温度の1.8℃設定 不要・休憩時間照明の消灯 OA機器のこまめOFF エアコンフィルターの定期清掃 断熱フィルム 電灯のLEDへの交換 	<ul style="list-style-type: none"> 裏紙使用・両面印刷コピーの徹底 〇ペーパーレス化の推進 ミスプリントを減らす 雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底 シュレッダー廃紙のリサイクル化 納入業者へ段ボールの引取り依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水の有効利用(洗車等) 雨水タンクの増設 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館の清掃 周辺道路の清掃
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> 急加速発進の抑制 冷暖房の控えめ使用(27℃) 買換え時はエコカーを購入する 	産業廃棄物(廃プラ)の削減 <ul style="list-style-type: none"> 委託処分廃棄物の削減 工事での産廃の分別徹底 産廃ボックスへの廃棄物の最小化 	化学物質の低減 <ul style="list-style-type: none"> 化学物質の保管管理及び清掃 塗装場清掃徹底1回/月(年12回) 	購入資材・事務用品のグリーン購入 <ul style="list-style-type: none"> 事務用品グリーン対象品の購入及びエコ率アップ 購入資材の環境配慮 省エネ性能の高い電気製品の購入 クールビズ・ウォームビズ制服購入
		製品への環境配慮 <ul style="list-style-type: none"> クーラント製品 業務用光触媒環境浄化装置の販売 	

8. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等	適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (一般廃棄物)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物の収集運搬業者への委託 契約(覚書)及び許可証写し保管(許可期限切れ更新) 	一般廃棄物(紙くず、段ボール、厨芥、包装等)	資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> 別名:リサイクル法 使用済パソコン等のメーカー回収義務 	社内パソコン
(産業廃棄物)	<ul style="list-style-type: none"> 委託先許可業確認 収集運搬・処理業者との契約(委託契約・産廃管理票発行・5年間保管) 産廃保管基準、保管置場の表示 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 自社による運搬時の表示・書類携行 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置 	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定施設の届出 空気圧縮機7.5KW以上。規制基準の遵守 	空気圧縮機7.5KW 2台
			毒物及び劇物取締法	<ul style="list-style-type: none"> 事故時連絡 保管場所の表示 盗難、流出防止 	硝酸
			労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤の適正な管理・SDSの周知 	塗料用溶剤
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 設置届出・浄化槽の維持管理 定期点検・定期清掃・定期水質検査 	合併浄化槽	フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> フロン類回収・破壊の適正取扱い 業務用ITツ・冷凍冷蔵庫管理者の簡易・定期点検、漏洩量行政報告義務 	業務用空調設備 コンプレッサー
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う 	自動車			
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い 	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン			

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2017年7月10日に確認した結果、法律違反等はありません。

また、地域住民からの訴訟や苦情や要望、行政からの指導などは創業以来ありません。(2017年7月10日現在)

9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境活動の取組み結果の評価

2016年度の環境活動では

目標値と達成率が段々厳しくなって来た中で、塗装場の宮崎工場への移転を計画し、達成しました。

5Sももう一度原点に戻ってびかびか作戦を展開し一定の成果を収めました。

仕事のリードタイムを短縮することに対しては、経営コンサルタントの池田先生にも指導を仰ぎ、工場ではレイアウトを変えるなど努力しました。

車の走行距離累計記録と燃費の関係を調査するに付いては未達の感があります。

蛍光灯をLEDに替える件は事務所を替えましたが、食堂と設計室が未達です。

本社工場トイレを節水型に替えました。目標を達成したのも引き続き継続する等を計画しました。

2. 実績の評価

○売り上げは前年比10%減であったにも関わらず塵の量の削減は然程減らず、産業廃棄物のリサイクル率は、塵を市外に持ち出せない為に、引き取り業者を変えましたが、その後またリサイクルに出せる対象を拡げるため、業者を変えました。結果は未だ然程に現れて居りません。

○一般廃棄物はリサイクル率97%を超え、昨年に引き続き目標を30%以上上まわり継続されました。

○自動車の燃料は、売り上げの減少にも関わらず、未達成に終わりました。走行距離の累計を比較して減らすと言う取り組みも成果が出ませんでした。ハイブリッドの営業車を1月から半年導入し、エコカーを増やしましたが成果に結びついておりません。1台平均の数値で比較値を出して行きましょう。

○電力は、本社工場の組み立て工場から制御も宮崎工場に移り、結果エアコンの使用が昨年よりさらに減り、大きく影響しているのでしょうか。昨年より減り、いずれも累計、月の使用量はどちらか達成できていると言う結果になりました。

○宮崎工場は制御も作業場を移動しましたが、電力使用が月平均23kWhに抑えられました。冬に上昇し、暖かくなると減ると言う傾向があります。

○水洗トイレを節水型に変えました。3月から水の使用は目標を下回る使用量でした。節約意識は根付いています。宮崎工場はこれに対して大幅に増えています。節水タンクを設置して、節水に取り組む必要があります。

○環境配慮製品は、今期も順調に伸びました。目標68台に対し85台でした。

○地域清掃活動は、今年も51回としっかり根付きました。年間を通して、毎週清掃して周囲もきれいに維持されました。地域の人からも謝意が届けられました。

○事務用品のグリーン購入対象品の購入は目標82%に対し69~79%で毎月未達成でした。目標が高すぎるのか、見直しが必要です。

○化学物質の管理は毎月2回しっかりやってくれました。

○焼却、埋め立ては82.4%で毎月×印(未達)でした。産廃業者が引き取った後、リサイクルできるものを埋め立て処分していたのも原因でしたが、業者を変えても大きくは変わりませんでした。業者を選定するときは価格だけでなく、マニフェストをしっかり守る業者かを確認して選ぶことが必要です。

3. 今後の取り組み

世界的に環境問題が人類にとって重要であると認識されています。G7でもアメリカ以外は結束し、パリ協定を順守することを誓いました。

○赤札作戦は今年も継続し、綺麗な工場維持に努めて行きましょう。

○産業廃棄物減量、塵のリサイクルとグリーン購入は再挑戦を継続し、達成できない原因を探し、塵の埋め立てを減らす目標を達成させます。

○宮崎工場の節水タンクを設置し、水道水の節水に努めます。

○リアルタイム化の促進のために改善メモをペーパーレスにします。他の分野もペーパーレス化を推進します。

○タントは走行距離も30万kmに近づいているので、5台目のエコカーに替えて燃費の削減に努めます。

可笑しいぞと判って来ている地球環境を、優しく守って行きます。

10. 環境活動の紹介

1. 環境方針の周知



全社員を対象に、エコの報告会をしました。



新入社員4名に、エコ新人研修を行いました。

2. 環境関連法規の遵守



年一回の消火訓練を行いました。宮崎工場から出火と想定して火災報知機も実際鳴らしました。



永田防災さんから、消火器の使い方を習い、水入りの消火器で試してみました。





毎年、火災警報器の点検と消火器の点検をしています。火災報知機の取り扱いについても学びました。

3. 二酸化炭素排出量の抑制



本社事務所の電灯を、蛍光灯からLEDに替えました。



本社事務所のエアコンの清掃を業者をお願いしました。



エアコンから汚水が出てきます。

左側が綺麗になった様子です。



左の写真が洗浄前 右が洗浄後。
心なしか良く冷えるような気がします。

4. 資源の効果的活用の推進



手作りの雨水タンクも2機あり、毎回洗車に利用しています。2017年度は、宮崎工場にも新設予定です。



インクジェットプリンターのカートリッジは回収ボックスで完全回収します。



ニチバンの巻き芯を集めて、第6回ニチバンecoプロジェクトに応募して、感謝状と花の種を頂きました。

5. 化学物質の適正な管理及び清掃



塗装場は、宮崎工場へ移設しました。壁には、注意喚起を貼っています。

長年の夢であった組立場の和式
トイレを、節水タイプの洋式
トイレへ改造しました。



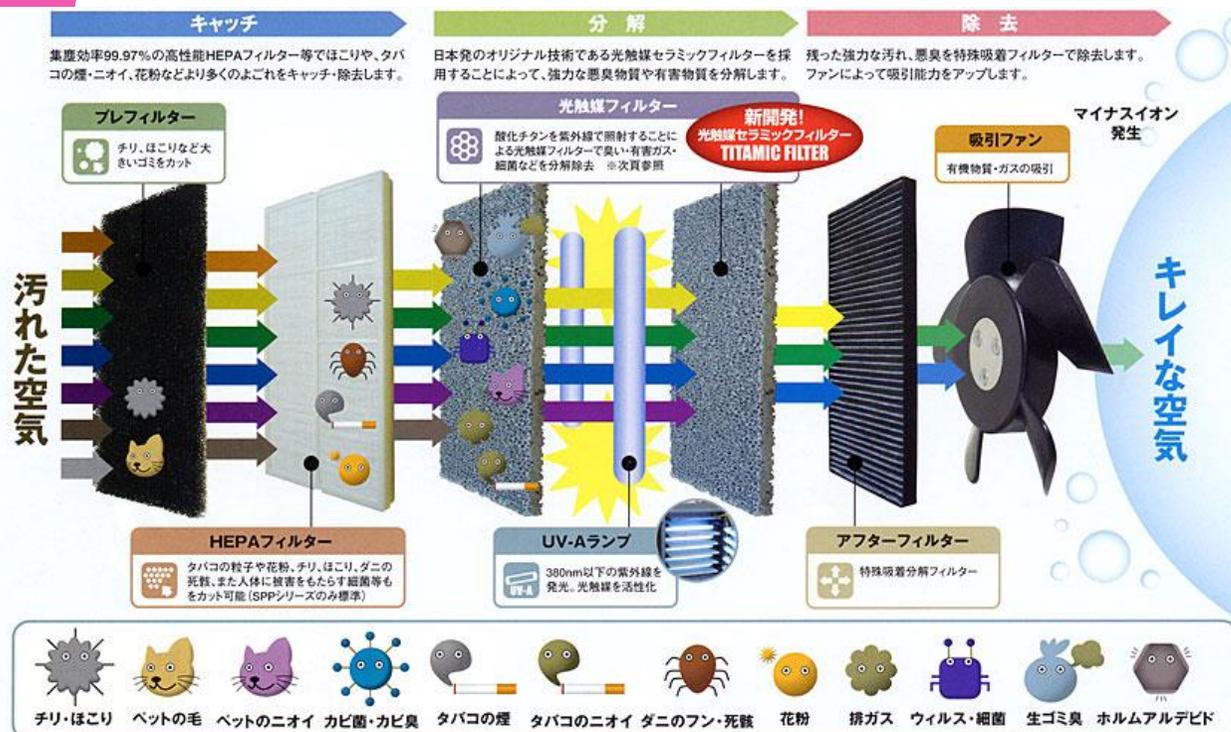
6. 製品への環境配慮

6-1. 環境配慮型クーラント製品の開発・販売



マグネットコンベアーは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すこと
によって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)

6-2. 除菌と消臭を同時に行う業務用光触媒環境浄化装置の販売



光触媒環境浄化装置は、**かざとキンとり君**と名付けられ、曾於市内のSOOグッドFMでの鹿児島弁の宣伝の効果があったのか、一般家庭からも問い合わせがあり、売り始めています。**(かざとは、鹿児島弁で臭いです)**



光触媒作用は、酸化チタンに紫外線を照射することによって起こる酸化・還元反応で、日本発のオリジナル技術です。

光触媒の酸化力はオゾン(O3)よりさらに強力で悪臭物質や有害物質を分解します。また、酸化チタンの表面のみで反応が進行するのでオゾンのように人体に影響がなく安全です。

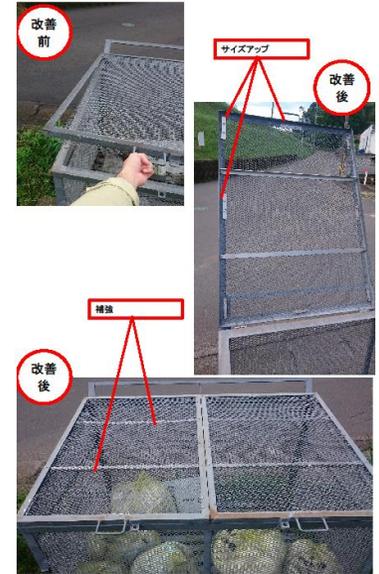
高い耐久性と優れた**脱臭、除菌効果**を持つ新開発の光触媒セラミックフィルター(特許登録済 第4610135号)の活用により、従来の家庭用に使用されている光触媒フィルター型脱臭機に比べ非常に高い効果を発揮できます。

光触媒環境浄化装置は、家庭でも病院や介護施設、大学病院等幅広く活用できます。

7. 地域の環境保全事業への参加



社員駐車場・三枝前自治会の公民館の敷地内の草刈りや清掃を毎週水曜日に、行っています。



宮崎工場前は、市役所の許可を得て、花を植えたり、自治会の無人販売所も出来ました。(一部マトヤの寄付です)



自治会のゴミステーションのBOXの修理も行ないました。